

もみじ

— 広島県山岳連盟会報 —



一般社団法人 広島県山岳連盟
〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17
電話・FAX (082) 296-5597
E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp
URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>
郵便振替口座 01380-6-37958

アジア山岳連盟総会

11 月 22 日 (土) ~26 日 (水)

広島市平和公園及びその周辺

「UAAA (アジア山岳連盟) 総会、20 周年記念式典開催に際し、国内外の山岳団体が一堂に会し、アジア各国との交流を図り、併せて日本の山岳環境保護についてその在り方を探る」目的でアジア山岳連盟総会が、11 月 22 日から 26 日まで広島市平和公園及びその周辺で開催されます。合わせて創立 20 周年記念の式典も開催します。

アジア山岳連盟 (UAAA) とは

アジア山岳連盟 (Union of Asian Alpine Associations) はアジア地域の山岳団体が構成される組織で、現在、13 の国と地域の、16 団体が加入しています。日本からは、広島県山岳連盟の上部 (中央) 組織である「日本山岳協会 (日山協 JMA)」と、「日本勤労者山岳連盟 (労山 JWAF)」とが加盟しています。毎年 1 回の「総会」は、各国が持ち回りで開いており、今年の「総会」は広島で開催されます。また、「アジア山岳連盟」は、今年で創立 20 周年を迎えます。



平和都市広島から、

未来の高峰を望む

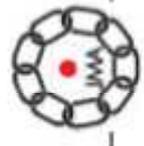
期日 11・22 (土) ~26 (水)

会場 広島市平和公園周辺
広島県廿日市市宮島



2014 アジア山岳連盟 (UAA) 総会 / 創立 20 周年記念式典
広島山岳平和祭
 2014年11月22日(土) - 11月26日(水)
 UAAA GENERAL ASSEMBLY & 20 Anniversary Ceremony
 主催 公益社団法人日本山岳協会 (JMA) / 主管 一般社団法人広島県山岳連盟 (HMA)
 Hosted by Japan Mountaineering Association / Hiroshima Mountaineering Association



2014年11月22日(土)	11月23日(日)	11月24日(月)	11月25日(火)	11月26日(水)
UAAA/UJAA 出席者来日 レジストレーション(受付) アステール プラザ  The A-bomb Dome JAC 受付: 10:00-11:00 鶴学園(工大)広島校舎(2階) 13:00 - 14:00 受付 広島市文化交流会館 (2階) 14:00 - 17:00(JACは11:00-) 各団体別自然保護集会 ・(日山連) 広島市文化交流会館 ・(JAC) 鶴学園(工大)広島校舎 ・(HAT-J)アステール プラザ 18:30-20:30 交流懇親夕食会 広島市文化交流会館 (3階)	「広島山岳平和祭」 式典 / 記念行事 / 祝賀会 広島平和記念公園周辺 朝食 / 各ホテル 9:00-10:00 受付(当日参加) 10:00-11:00 平和・安全・安心 祈願 「広島山岳平和祭」 平和記念公園・慰霊碑周辺 11:00-12:00 平和学習「平和記念資料館」 12:00-13:30 昼食(広島市文化交流会館 他)	UAAA/UJAA 弥山ハイク 宮島・厳島神社参拝 朝食 / 各ホテル 8:30-15:00頃 弥山(535m)ハイキング 宮島 厳島神社参拝 (各団体別・各コース別) (昼食は「山のおべんとう」) 午後 下山後 解散 (宿泊場所までバス輸送) <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> オプション 16:30~17:30 アステールプラザ 7F (研修室 C) 「キルギスの山の紹介」 キルギス山岳会(無料) </div> オプション ① 銀河ディナー クルーズ 宿泊: 広島市文化交流会館 他 アステールプラザ(国際青年会館)	UAAA 総会 アステール プラザ (朝食 / 各ホテル) 9:00-12:00 UAAA 総会 アステール プラザ 大会議室AB 12:00-13:30 昼食(広島市文化交流会館 他) 13:30-16:00 UAAA 総会 大会議室AB オプション ② 山口県秋芳洞と 秋吉台ハイキング 18:30-20:30 きよならパーティー 広島市文化交流会館 フォーシズンス 宿泊: 広島市文化交流会館 他 アステールプラザ(国際青年会館)	UAAA/UJAA 出席者来日 解散 (朝食 / 各ホテル)  Miyagima Irukushima JINJYA  JMA

講習会報告**レスキュー講習に参加して****個人会員 田中 宏之**

レスキュー講習に参加して、これまでに間違いだと思っていなかったことも、間違いであったことが判明しただけでも収穫であった。

技術書に目を通し独自に練習してみることはあっても自分なりであったということだろうと反省する部分は多い。講習の有効性を感じさせられる。

縦走ハイキングレスキューコースということで、レスキュー講習の中では初歩ともいえる講習で、場所は広場、遊歩道のような場所と好条件にも関わらずなかなか思うようにならない。やることなすこと何かしらの問題が生じ、それらを解決させて行きながら事を進めていく。

これが実際に山だとすると、どれだけのことが出来るのか、出来ることはあるだろうが、かなり限られたことくらいしか出来ないのではないかと感じるとともに、今回のレスキュー講習を受講して、これまでよりは自分で出来るであろう限られたことの幅は広がったと感じている。

クライミングスクール 感想文**足の運びをうまくしたい****掛川 チョエ**

日時：10月5日(日)

場所：三倉(源助崩れ)

台風18号が近づいていて、午後から雨との予報。雨が降らないうちに少しでも岩での練習をしようと、源助崩れへ。クラックを登る練習。ラッキーネーブル、モアイ、猫の悲鳴に挑戦。

どのコースも上まで登ることは出来なかったが、クラックに掌を差し込み、ジャミングで引っかかり滑らないで登れることが実感できた。

講師の皆さんがビレーをして下さり、何度も挑戦させ

ていただきました。

天気予報通り、昼過ぎ急に暗くなり雨が落ち始め、練習は終了し下山する。

いつもの反省だが、腕の力だけで登ろうとするので、時間がかかると腕が疲れてギブアップしてしまう。足の運びを上手くして楽に登れるようにしたい。



(写真提供 今澤 勝美)

岳連例会山行報告

恐羅漢・天杉山山行 10月22日

個人会員 小家石 美雪

やはりメールは来なかった。今日は雨。2年ぶりの雨の山行。さらに久々の山行。気持ちはブルーだった。午前7時、JR広島駅出発。戸河内を出発した頃から雨に備え着々と準備。

午前9時、牛小屋出発。夏焼峠へ。小雨。樹林帯に入るとさほど気にならない。黄葉がきれい！雨に気をとられ紅葉の季節である事をすっかり忘れていた。黄色に染まった葉を踏み、緑から黄色、そして少しの赤へと変わる木々の葉を見ながら登る。この辺りには10種類位の楓があるそうだ。

午前10時30分、恐羅漢山到着。小休憩後出発。台所原へ。中ノ川山。山頂は気づかずに通り過ぎてしまった。岩倉山との分岐も通過してしまう。ここで岩倉山を往復する時間がないのでそのまま天杉山へ。柵の

木とブナが抱擁した木、5人兄弟?いや6人?のブナ。黄葉の中歩き進む。天杉山13時頃到着。昼食。先輩方々にこの辺りの歴史を伺う。帝国製鉄の社員の家族の皆さんが住む集落があったそうである。今回はホタノコヤルートで下山。大先輩が開拓したルートだそう。天杉山から高岳方向の最鞍部まで下り小さな看板を右折。藪をこぎ、テープを頼りに谷沿いを一気に下る。中ノ甲登山口着。このあたりから雨が本格的になる。さすがに無口になる。夏焼峠を経て牛小屋駐車場15時着。

雨の山行でしたが同行者に恵まれ、黄葉や思いがけない藪こぎ。更には先輩方々から色々なお話を伺いながらの山行。大変有意義で楽しい山行でした。会の担当の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

クライミングスクール感想文

劣等生も頑張るクライミングスクール

眞鍋 康行

10月の講習は、8月に続き9月の講習も左肩関節炎になり左肩が思うようにあがらず、2回連続で欠席してしまつたので、3か月ぶりの出席となった。

今回参加する前からの心配は、2回のロスによりレベルアップしたであろう講習内容についていけるかという事でした。

私の心配通り、今回の岩場はホールドが少ないのか、スタッフよりテーピングをする様に指示があった。みんな平然と指示に従いテーピングしている。欠席した以前の講習でクラックを利用してのクライミング講習があったのであろうか。見様見真似で、そしてスタッフに聞きながらテーピング終了。

今回のクライミングルートは、長い3ルートと短い3ルートでのトップロープでの講習であったが、私は、安易に短い方が簡単(楽)だろうと「ソフトクリーム」「白熊」「猫の悲鳴」をルート選択し、アタックをしたが3ルートとも最終点まで行けず見事に敗退してしまった。

岩の凹凸が多く、ホールドが十分にあれば、手足の力だけで登る事も可能であろうが、

今回のようなルートでは、クラックでのジャミングテクニックとか、岩の小さな突起での岩の持ち方や立ち方、手足のバランス等のテクニックが必要であると反省させられた。

劣等生の私ではあるが、9月26日より単独での新穂高温泉～槍ヶ岳～奥穂高～涸沢～上高地の縦走を計画・実行し、大抵に恐怖も感じず(肉体的にはバテバテであったが)、28日無事に下山できたのも、このクライミングスクールで学んだ事が、大いに自信となっている。

日本山岳協会・レスキュー講習会

「チームレスキュー」との連絡調整

遭難対策委員会 大久保 泰志

平成26年9月26日～28日、社)日本山岳協会遭難対策委員会が国立登山研修所(富山県)で開催した「平成26年度無積雪期山岳レスキュー講習会」に参加してきました。

山で負傷事故に遭遇した場合、その場に居合わせた者が行う「セルフレスキュー(応急手当、安全箇所までの一時退避)」について学びましたが、この度は、消防・警察等の救助機関が行う「チームレスキュー」との連絡調整について、講義・演習で学んだこと、考えたことを報告します。

登山の大原則は自己責任

近年、山岳救助活動で大きく変化したことは、救助機関が使用するヘリコプターの増加と救助組織の充実です。ヘリコプターを使えば、迅速かつ安静に負傷者を医療機関へ搬送でき、後遺症の軽減・早い社会復帰を可能とします。

それに加え、大きく変化したことは、携帯電話(以下「携帯」)の利用エリアの拡大です。

登山の大原則は自己責任で、また救助組織はたいへん貴重な社会資源です。「携帯で簡単にできるから」と安易に救助を要請することは厳に慎むべきですが、真に緊急を要する事故に遭遇した場合、携帯は救助機

関との連携に極めて重要なツールとなります。

一刻も早く医師の治療を受けさせる必要がある場合、自分達だけで対処が困難な場合、救助機関に搬送を委ねた方が傷病の悪化を防げると判断した場合、携帯が使える場所であれば、携帯を使って救助機関へ通報し、携帯を用いて連携を取りながら、レスキュー活動を行うこととなります。

1 救助機関との連携の手順

講習会で行った模擬実習の内容・手順は次のとおりでした。

①負傷者に遭遇，登山者は“119”番へ救助要請

(原則的に怪我は“119”，場所不明で捜索が必要な場合は”110”)

②119 (消防本部通信指令室など) は，必要事項の確認後，担当部署へ伝達・指示

③担当部署は登山者の携帯へ電話。担当部署は負傷者の位置・詳細を確認

④担当部署は救助隊を編成・指示

⑤担当部署は登山者の携帯へ電話。救助計画を連絡，指示

・今回の講習会の実習では

「20 分後に〇〇にヘリが到着します。負傷者を〇〇へ移動してください。」

⑤登山者は負傷者を〇〇に搬送，搬送の完了を担当部署へ報告

⑤ヘリが到着→必要な情報を伝達 (負傷者の引継ぎ) →救助隊が負傷者を医療機関へ移送。

2 筆記録の作成 (緊急連絡シート)

救助要請，救助隊への負傷者の引継ぎ時には，正確な情報伝達が不可欠ですが，事故に遭遇すると慌ててしまい，時間の感覚を失ったり，重要事項の確認を漏らしたりします。必ず，記録係を決め，負傷者を救助隊へ引き継ぐまで筆記録を続けます。

この度の講習会では，的確かつ迅速な記録が取れるよう，下記に掲載した「緊急連絡シート」が

示され，万々に備え「緊急連絡シート」を何時でも直ぐ出せるよう，メンバー全員が持っている「登山計画書」の裏面に印刷するよう指導・提案がありました。

3 携帯電話の管理

救助機関と遭難現場をつなぐ最も重要な連絡ツールです。もし電池切れになれば，連絡は遮断し，救助活動自体が崩壊しかねません。「道迷い遭難者との連絡が携帯の電池切れのため途絶。行方不明。」とのマスコミ報道を聞くことがあります。救助要請に使った携帯は，いつでも救助機関からの電話を受信できるよう，また電池の消耗を防ぐため，救助機関との連絡専用とし，その他の目的に使わないようにします。

また，救助機関からは，予備の連絡先として，他のパーティーメンバーの携帯番号も聞かれます。登山計画書にはパーティーメンバーが所持する携帯番号も記入しましょう。登山計画書に記載するメンバーの携帯番号は，メンバー同士の間での連絡のためだけでなく，山の中にいるパーティーへの連絡手段を第三者に知らせるためでもあるのです。

4 負傷者との遭遇

セルフレスキューが必要となるのは，パーティーメンバーが負傷した場合だけでなく，山中で負傷者に遭遇した場合もあります。

負傷者の意識レベルが低く会話ができない場合であっても，救助機関から必ず聞かれる負傷者の氏名・連絡先，持病等，負傷者に関する情報を集める必要があります。

真っ先に確認したいのは，ザックの天蓋ですが，ザックを開ける前に必ず本人に「〇〇のためザックの中を見させてください」と声をかけてください。意識レベルが低く，たとえ返事ができないと思えても，負傷者のプライバシーの尊厳上，必要な手続きです。

また，万々が一，逆の立場となる場合に備え，山

に行くときには、自らの情報を記入したペーパーを、天蓋の中、落としにくい探しやすい場所に入れておくよう習慣づけてはいかがでしょうか。

く疎くなりがちですが、次の山で事故を起こさない、巻き込まれない、事故に遭遇しないとは、誰にも断言できません。事故を起こさないという予防に向けた不断の努力に加え、たとえ起きても被害を最小にするための準備が必要です。セルフレスキュー技術には、ロープワーク、負傷者の搬送、応急手当など、様々な技術があり、様々な組織が、様々な講習会を開催しています。是非、ご参加をご検討ください。

終わりに

ヘリコプターと携帯電話の活用について述べましたが、夜間や霧で視界が利かなければヘリは飛ばず、また携帯が使えない山は沢山あり、依然として登山は自己責任が基本です。

セルフレスキュー技術は、使う機会が極めて少な

緊急連絡シート 例

緊急連絡シート 例

緊急連絡シート				
事故発生日時		月 日 時 分 頃	目印	
事故発生場所				
事故者	氏名	男・女	歳	
	住所・電話			
	緊急連絡先			
	所属団体			
	連絡先			
	事故の内容			
	怪我の有無			
	容 態 時 分	意識		
		呼吸		
		脈拍 顔色 体温		
計画書の有無	有・無	提出先	救助隊・ヘリの要請は	

※ 記入しなければならないのは、事故者の氏名・連絡先・所属団体・ケガの箇条、事故発生場所、救助要請者の氏名と連絡先、現場との通信手段、ヘリコプターの出勤が必要かどうか、など。事前に登山届を提出しているのなら、その旨伝えること。

12 月 事業計画

- 6 (土) 県体協表彰式 (リーガロイヤルホテル)
- 6 (土) 岳連例会山行像頭山・金毘羅
- 10 (水) ビギナーズレッスン (県体育館)
- 10 (水) 運営会議
- 17 (水) 岳連例会山行・鬼が城 (笠岡市)
- 17 (水) スカイラン実行委員会
- 20 (土) キッズクライミングスクール閉会式

登山中の 9 つの危険**1、道迷い**

登山道には様々な道標があります。登り口や分岐にある道標は、方向を矢印で示し地名と時間あるいは距離等が示されます。時間、距離はいずれも目安です。樹林帯には赤テープを木にまいたり、岩礫帯では石を積んだケルンがあります。

濃霧の中を歩いているうちに、自分がどこにいるかわからなくなり、不安に陥ります。地形図とコンパスの使い方を熟知することが必要です。近頃は、GPS (グローバルポジショニングシステム) も活用できます。地形図もコンパスもなしで道に迷った時は、位置が分かる所まで引き返そう。

低山は、仕事道、枝道も縦横にありコースを誤ることがあります。低山は、高山より地形を読み難いことも多いので注意が必要です。

(以下説明文省略)

2、転倒、転落、滑落**3、疲労**

熱中症

低体温症

4、落石 5、落雷 6、雪崩と崩落**7、鉄砲水 8、凍傷****9、危険な野生生物 スズメバチ ウルシ類**

(「安全登山ハンドブック 2014」から抜粋)

岳連短信

UAAA 準備委員会 2014・10・22 事務局にて

**山の風景 46****竜ヶ岳へ登る**

2013・9・29

写真提供 森 智昭 (ひこばえ)

**編集部より**

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想・写真など気軽にお寄せください。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○各研修会、講習会へ参加された方は積極的に報告書を提出ください。随時掲載いたします。

題字デザイン 今村みずほ **編集** 仲井正美